



訳 とうとう「 」。

## 文脈を理解する

### 第一段落

- 1 「いかでこれほどの歌詠むべき」の現代語訳として最も適当なものを、次から選びなさい。
  - ア この程度の歌を詠む能力はあるにちがいない。
  - イ なんとかしてこれほどの歌を詠もうとするにちがいない。
  - ウ どうにかこれほどの歌を詠むことができるであろう。
  - エ どうしてこれほどの歌を詠むことができようか、いや、できないだろう。
- 2 「思ひける」の主語を答えなさい。
- 3 「恋すてふわが名はまだき立ちにけり」の現代語訳として最も適当なものを、次から選びなさい。
  - ア 私が恋をしているという噂はもう立ってしまった。
  - イ 私が失恋したという噂はもう立ってしまった。
  - ウ 私が失恋したことはまだ人に知られていない。
  - エ 私が恋をしていることはまだ人に知られていない。
- 4 「つつめども色に出でにけり」について、
  - (1) 現代語訳として最も適当なものを、次から選びなさい。

- ア 包んでおいたが、外に出てしまったよ。  
イ 慎んでいたが、動作に表れてしまったよ。  
ウ 隠していたが、顔色に出てしまったよ。  
エ 言わないでいたが、言葉に出てしまったよ。  
(2) そのように思ったのはなぜか。説明しなさい。

## 第二段落

- 5 「判じ煩ひて、天氣を伺ひける」の現代語訳として最も適当なものを、次から選びなさい。  
ア 歌の意味を判断するのに困って、空を見上げてごまかそうとした。  
イ 歌の意味を判断するのに困って、天皇のお気持ちを知らうとした。  
ウ 勝敗の判定を付けるのに困って、空を見上げてごまかそうとした。  
エ 勝敗の判定を付けるのに困って、天皇のお気持ちを知らうとした。  
6 「兼盛勝ちにけり」とあるが、兼盛の勝ちと判定されたのはなぜか。説明しなさい。

## 第三段落

- 7 「不食の病つきてけり」とあるが、そうになったのはなぜか。わかりやすく説明しなさい。  
8 「頼みなき由聞きて」の現代語訳として最も適当なものを、次から選びなさい。  
ア 頼りにならないという理由を聞いて  
イ 頼みにならないという噂が広まって

ウ 快復の望みがないとの話を聞いて  
エ 当てにならないという話が聞こえて

9 「殿」とは誰のことか。本文中から抜き出しなさい。

主題を考える

10 『沙石集』の編者は、忠見のあり方をどのように評価しているか。空欄にそれぞれ適当な言葉を補いなさい。  
執着心を持つことは a 「  
「けれども、忠見が b 「  
「ことを習慣としていたのは c 「  
」。